

メディア情報工学科だより



2008年12月24日 第3巻第3号（通巻第9号） 沖縄工業高等専門学校メディア情報工学科発行

学科近況

この秋沖縄高専は、ロボコン全国制覇、パソコン甲子園2連覇と立て続けにマスメディアに取り上げられました。紙上ではありますが、偉業を成し遂げた皆さんに拍手を送りたいと思います。

さて、5年生の進路は、進学希望者9名をのぞき、すべて確定いたしました。卒業まで残り約3ヶ月、気を抜かずに高専ライフを全うしていただきたいと希望します。特に卒業研究はこれから本番です。長い人生、後で振り返ってよき思い出となるような卒研とするよう、取り組んでいただきたい。

次に、4年生の卒研配属が決まりました。配属先の一覧表もご連絡いたします。来年度卒研は、より充実したものとなるよう配慮する予定です。担当教員とよく話し合い、納得のできる取り組みができるよう準備を進めて下さい。また、来年度の就活は、本年度と異なり一転して厳しくなると想定しています。ただ、欲しい人は好不況に拘わらず採る、というのが企業の本音です。早めの情報収集と'自分を知ること(欲しい人と企業に思わせること)'が重要になると思います。

今回、3・4年生は3月に研修旅行を実施します。よい思い出をつくっていただきたい。と同時に、自分の足で歩いて、東京の地下鉄・私鉄網を使いこなすようにして下さい。いいかえれば、都会生活に少しでも慣れておいて下さい。インターンシップや就活の際に活動しやすくなります。

今、沖縄高専全体の懸案事項として2009年度専攻科設置があげられます。現時点までは順調に作業が進んでいます。専攻科ができて、JABEE審査で認定されてはじめて、他高専と肩を並べる状況となります。まだまだ沖縄高専も成長途上、引き続き皆様のご理解ご協力を願う次第です。

(平成20年度学科長：姉崎 隆)



各学年の話題（5年生）

学級状況について

1期生にとって4回目となる高専祭ではクラスの有志によって映像作品：短編集「二つの奇妙な物語」と長編「GENE」を制作しました。撮影や演出、編集にこだわっただけではなく、NG集と予告編映像、ポスターやパンフレットも併せて作成しました。高専祭当日は上映会場から人があふれるほど大盛況で、高い評価をいただきました。

進路について

5年生の全員の進路が確定しました。1期生は就職26名(65%)、進学12名(30%)、留学(5%)という結果でした。進学12名の中には専攻科5名と琉球大学2名が含まれます。これらは来年度予算が国会

で成立してからの入試となりますが、全員無事に合格するものと確信しています。5年生の就職は秋口から始まる世界的な不況に突入する寸前に全員が就職内定しましたので、空前の売り手市場の中、就職活動ができ幸運であったと言えます。また、メディア情報工学科の進路を他学科と比較すると、進学者数の少なさが目立ちますが、これは本学科の学生の学力の問題ではなく、早く社会に出たいと考える学生が多かったためです。沖縄高専1期生として社会人として、また、大学生としての活躍を期待します。

卒業研究について

11月19日に校内でメディア情報工学科の卒業研究中間発表会を行いました。各々の学生がこれま

で行ってきた研究内容について7分間のプレゼンをしました。研究があまり進んでいない学生にとっては他の学生の発表を聞いて刺激になったようです。今後、2月26,27日に予定されている最終発表に向けて卒業研究が佳境に入ります。高専での5年間の学習の集大成として充実した卒業研究となるよう、今後も指導して参ります。

卒業式について

5年生の卒業式は3月21日（土）に行われる予定です。卒業式の後には学生主催でイベント等も計画しているようです。本校の第1回卒業式です。多くの保護者の出席をお待ちしています。

（メディア5年担任：正木 忠勝）



各学年の話題（4年生）

学級状況について

【1】進路のアンケートの結果について

4年生の進路アンケートを12月6日に実施しました。その結果は以下のようになりました。

・就職24人(66.7%)

【県内10人(41.7%)、県外14人(58.3%)】

・進学12人(33.3%)

【大学7人(58.3%)、専攻科5人(41.7%)】

3ヵ月前の調査に比べて就職志望が増えておりますが、2ヶ月前及び1ヶ月前の調査に比べて、就職進学比率はほとんど変わらなくなりました。各々の学生の心の中には自分の進路を固めたのではないかと思います。

◆就職活動について、早い者は1月から始まりです。2009年1月7日に那覇小禄産業支援センターで企業説明会を開催し、4年生が全員参加することになっています。参加企業も決まりましたので（リストをメールで送付済み）そのリストを参考に事前に企業研究しておくとうよいと思います。因みに1月6日にオリエンテーションを行います。

◆進学志望の学生には、今から希望大学の過去問等を入手し勉強してほしいと思います。受験時期は5月～夏休み前までが多く、間に合うように準備しておきましょう。

【2】卒業研究「卒研」配属について

現在の4年生が来年度5年生に上がり、卒業のために「卒業研究」を行わなければなりません。卒研配属という行事は、学生がどの教員に所属し卒業研

究するかを決める、重要な行事です。11月21日に配属が完了しました。その結果を表1に示します。

表1 研究室配属の結果

研究室（教員名）	配属した学生
姉崎 隆 ANEZAKI, Takashi	伊波 幹夫
	下地 寿弥
	平安名 啓太
	吉濱 雄介
角田 正豊 SUMIDA, Masatoyo	新崎 貴紀
	仲西 亮平
	町野 雄貴
	宮本 拓也
正木 忠勝 MASAKI, Tadakatsu	賀数 恵太
	金城 尚志
	栗秋 太一
	山本 宗章
伊波 靖 IHA, Yasushi	稲嶺 友理香
	上原 龍生
	八幡 美希
	森岡 駿
西村 篤 NISHIMURA, Atsushi	伊波 博治
	大城 成子
	兼城 光
	黒田 千亜希
	波平 武蔵
太田 佐栄子 OHTA, Saeko	上江洲 諒
	奥平 進太郎
	砂川 昇吾
	仲宗根 結花
タンスリヤボン スリヨン TANSURIYAVONG, Suriyon	石川 仁史
	遠藤 隆将
	砂川 正樹
	比嘉 道成
パイティガ ザカリ MBAÏTIGA, Zacharie	石川 翔太
	佐久川 仁美
	砂川 俊樹
	仲間 睦男
佐藤 尚 SATOU, Takashi	大濱 龍之介
	西江 涼
	與那嶺 潤

【3】研修旅行について

4年生の研修旅行は来年3月2日～5日、東京へ行く予定になっています。現在の正式予約状況を表2に示します。

研修先としてはJAL羽田整備工場、日本ユニシスを確定しておりますが、その中に「自主研修」もあり、各自（グループ）で計画し行動できるようにしました。就職したい企業を見学したりすることが出来ます。保護者様には既に郵送済みである研

修旅行参加確認書および個人行動計画承諾書を1月9日までにご返送いただきますようよろしくお願い致します。

表2 メディア4年・研修旅行日程

日付	行程	宿泊先
3/2 (月)	10:45 那覇空港集合 12:45 那覇空港出発 日本航空904便 14:55 羽田空港着 16:20 日本ユニシス 19:00 ホテル着	東京都内：錦糸町 東武ホテル レバント東京
3/3 (火)	グループで自主研修	東武ホテル レバント東京
3/4 (水)	グループで自主研修	東武ホテル レバント東京
3/5 (木)	午前：JAL整備工場／羽田 13:20 羽田空港出発 日本航空919便 16:05 那覇空港着・解散	

(メディア4年担任：タンスリヤボン スリヨン)

インターンシップについて

メディア情報工学科4年生は8月18日から9月26日にかけて、2週間を基本として、最短1週間から最長4週間のインターンシップを体験しました。今年度のインターンシップでは、県内15カ所(19名)、県外14カ所(17名)の事業所等に受け入れをして頂き、全員が事故もなく有意義な体験をすることが出来ました。受け入れをして頂いた事業所の皆様に心より感謝申し上げます。また、インターンシップの実施に伴い、保護者の皆様には物心両面からのご協力を頂き、誠にありがとうございました。

10月8日には、インターンシップ報告会を実施し、全員がインターンシップの内容やインターンシップ先で学んだ事について報告を行い、質疑応答も活発に行われました。学生の実施後のアンケート及び事業所の担当者様から頂いたコメントの中から、以下に抜粋して掲載します。

【学生の実施後のアンケート(抜粋)】

- ・自分の将来を考える上で参考になった
- ・他の実習生たちといろいろな話ができてよかった
- ・もうちょっと期間が長くていいかなと思いました
- ・見学内容は豊富で、いつもは体験できないようなことをたくさんすることができた

- ・企業の所で実際の仕事をする事ができるインターンシップは有用だと思う。これからも続けてほしい
- ・自分が想像していた仕事ではなかったものの、大変貴重な経験をする事が出来た

【事業所の担当者様から頂いたコメント(抜粋)】

- ・技術的には問題なく、自ら問題解決に取り組む姿勢が見えます。経験さえ積めば、社会でも十分通用します。今後は難しい問題に当たった時、それを理論的に考え、展開し、やるべき事を導き出す能力。そして、一人で解決できない場合は、相談する能力を研鑽して頂きたいです。
- ・慣れない東京での生活に、必死になって順応しようとする態度がとても良かったです。私が気になって改善点を述べた時も真摯に受け止め、向上しようという気持ちが伝わってきました。まだ「業界の本当の大変さ」を知るまでは到達していませんが、テレビはどうやって作られるのか、ということは、よく理解してくれたと思います。とても感じの良い好青年でした。
- ・インターンシップ開始直後よりスピーディーに依頼事項を進めてくれました。調査能力検証作業能力共に優れております。今後は今以上に積極的に行動できるようになると良いでしょう。これからの成長が楽しみです。

(インターンシップ担当：伊波 靖)



各学年の話題（3年生）

学級状況について

後学期に入ってから、遅刻者の数が急増しています。社会に出てから、いきなり規則正しい生活を送れるとは思えませんので、学生のうちから規則正しい生活を心がけ、朝早くから起きることに慣れる必要があります。夜遅くまで起きて睡眠不足になると、免疫力が弱まりますので、気温が下がってきた最近では特に注意が必要です。

さて、後学期では11月8日（土）と9日（日）の2日間にわたり高専祭が開催されました。メディア3年では映像作品を制作し、上映いたしました。映像作品を制作することを決めた他のクラスの準備開始時期と比べると、メディア3年のスタートはやや遅かったように感じられましたが、クラス委員長を中心に全員が一丸となり、一生懸命準備を行いました。具体的には、クラスの有志が「ギネス」記録に挑戦し、コメンテーター役の私が各挑戦を評価する

架空のテレビ番組という形で映像がまとめられました。高専祭は両日とも盛況で、合計4つものギネス記録の更新の瞬間を収めた（*）メディア3年の映像作品も非常に多くの方々に喜んでいただくことが出来ました。見事にギネス記録を更新することができた（*）「バナナを1分間に2本以上食べ（ら）れたらギネス」、「チョコボールをストローで3.36m飛ばせばギネス」、「1分間に馬跳び48回以上でギネス」、「ニラを11.11m以上投げ（ら）れたらギネス」での記録を塗り替えた瞬間のハイライトシーンの画像を掲載いたします。



公式ギネス記録より1m9cmも遠くまでニラを飛ばすことに成功



1分間で4本のバナナを完食した瞬間



公式ギネス記録を約60cmも上回る3m98cmの記録が出た瞬間



公式ギネス記録を4回も上回る52回目の馬跳びの瞬間

*：今回の映像作品に収められた全記録は、2008年10月時点で入手可能であったギネス記録の情報を基に、メディア3年の記録・計測スタッフが各挑戦における記録更新の判定を行ったものであり、ギネス・ワールド・レコーズの認定審査員によって判定された正式記録ではありません。また、競技に用いた食品は競技終了後にメディア3年スタッフがすべて美味しくいただきました。

次に3年生の研修旅行についてご説明いたします。今年は変則的に4年生と3年生が同じ時期に研修旅行へ行くことになります（来年以降は3年生のみ）。基本的な研修旅行の内容は4年生のものとほとんど同じで、JAL羽田整備工場での研修が確定しております。ただし、3年生の場合、4年生より1日早い来年3月1日（日）の出発となり、下記表3に示されるように宿泊先も異なります。また、研修先としましては、4年生と同じ日本ユニシス（予定）の他に日本科学未来館での研修も予定しております。詳しい旅行日程につきましては、表3をご覧ください。

表3 メディア3年・研修旅行日程

日付	行程	宿泊先
3/1 (日)	11:00 那覇空港集合 12:45 那覇空港出発 日本航空904便 14:55 羽田空港着 18:30 ホテル着	ニューオータニイン 東京 東京都品川区大崎 1-6-2 TEL: 03-3379-9111
3/2 (月)	●朝食（ホテル内） ●日本ユニシス（予定）、 および日本科学未来館 ●昼食・夕食（各自）	ニューオータニイン 東京
3/3 (火)	●朝食（ホテル内） ●グループでの自主研修 ●昼食・夕食（各自）	ニューオータニイン 東京

表3の続き（3/4の旅程）は次ページにあります。

3/4 (水)	●朝食（ホテル内） ●午前 JAL整備工場見学、 昼食（各自） 13：15 羽田空港出発 日本航空919便 16：00 那覇空港着・解散	
------------	---	--

（メディア3年担任：佐藤 尚）



その他の学科内の話題

コンテストについて

メディア情報工学科では県外で行われる各種コンテストに積極的に学生がチャレンジしています。

【パソコン甲子園】

2008年11月8,9日に福島県会津若松市で開催されたパソコン甲子園2008（主催：福島県、会津大学、全国高等学校パソコンコンクール実行委員会）に本校からデジタルコンテンツ部門、プログラミング部門で予選を通過し、福島県会津若松市の会津大学で開催される全国大会に出場しました。

●デジタルコンテンツ部門

パソコン甲子園デジタルコンテンツ部門において、本校の学生が2年連続グランプリを受賞しました。グランプリを受賞したのはメディア情報工学科3年渡嘉敷拓馬君と機械システム工学科3年の石橋祐紀君の2名の『かえりみち製作委員会』が製作した『かえりみち』です。

「かえりみち」は打合せのため外出したサラリーマンが交通事故に遭い、生死の境をさまよう中で家族との絆により、無事生還する物語をCGと手書きアニメーションを組み合わせた約6分45秒の作品です。



グランプリ受賞作品「かえりみち」のワンシーン

今年のパソコン甲子園デジタルコンテンツ部門は「扉を開けたら・・・」をテーマに全国の高

校、高等専門学校から82チームがエントリーし、10チームが本選に勝ち進みました。本選に出場した10チームによるレベルの高いプレゼンの中で、本校学生の作品の完成度の高さと細かな作り込みが高く評価され、グランプリを受賞しました。今回のグランプリ受賞チームのひとり、渡嘉敷拓馬君は昨年チーム「OSO」の一員としてグランプリを受賞しており2年連続の受賞となります。また、渡嘉敷拓馬君は本大会のいちまいの絵CG部門においても佳作を受賞しておりダブル受賞になります。



賞状等を手にした橋祐紀君（左）と 渡嘉敷君（右）

●プログラミング部門

パソコン甲子園2008には本校はプログラミング部門にも本選に出場し、10位入賞を果たしました。入賞したのはメディア情報工学科2年の伊佐亮君と久米剛弘君の2名（チーム「MASAKI」）です。プログラミング部門は全国から358チームがエントリーし、インターネットでの予選を経て、20チームが本選に進出しました。プログラミング部門は出されたプログラミングの問題を制限時間4時間以内に解けた数を競う競技です。本選に出場した2年生以下だけのチームが20チーム中4チームしかない中、本校の2年生のチームが10位の成績を残せたことは大健闘でした。

【EPOCH@まつやま】

EPOCH@まつやまはプログラミング技術の裾野を広げることを主たる目的として愛媛大学と、松山市が主催する大学生以下の生徒・学生を対象としたコンテストです。2008年8月～10月にインターネットで行われた予選を通過した20チーム（1チーム2名）が愛媛県松山市で行われる本選に招待されます。本大会にはメディア情報工学科3年の上原悠輔君と山内祥平君の2名（チーム「InDoorz」）が本選に出場しました。東京大学や大阪大学、京都大学の学生も出場する中、本校が

ら出場したInDoorzは総務省四国総合通信局長賞を受賞しました。

【高専プロコン】

高専ロボコンに次いで高専での大きなイベントである高専プロコンの競技部門に出場しました。今年の高専プロコンの競技部門はマス目上のフォールドに置かれた荷物をトラックが回収する競技で、荷物あたりのガソリン消費量を少なさを競うゲームです。効率的なフィールドの移動コースを求めるプログラムの性能が求められます。本学科からは4年生の上原龍生君と情報通信システム工学科4年の3名がチームをつくり全国大会に挑みました。競技では1回戦はグループ1位で通過したものの、準決勝で敗退しました。

【情報オリンピック】

メディア情報工学科2年の31名の学生が12月14日にインターネット上で行われた日本情報オリンピックの予選に挑戦しました。日本情報オリンピックは高校生以下の生徒を対象とする国際情報オリンピックの選手を選抜するための日本大会です。今回の予選では本学科2年の伊佐亮君と久米剛弘君の2名が予選を通過し、来年2月7,8日に東京で行われる本選に招待されました。本選での成績優秀者は来年3月19日～25日に行われる強化合宿に招待され、その中から日本代表選手4名が選拔され、第21回国際情報オリンピック・ブルガリア大会へ派遣されます。

（コンテスト担当：正木忠勝、タンスリヤボンスリヨン）

資格試験について

10月19日（日）に実施された平成20年度秋期情報処理技術者試験にメディア情報工学科から54名（全体では84名）の学生が受験し、本学科から13名の学生が合格しました（合格率24.1%）。試験会場が那覇市と学校から遠いため、2台のバスで試験会場までの送迎を行うなど、学校として資格試験取得に積極的に支援を行いました。メディア情報工学科の合格者は次のとおりでした。

資格試験の種類	合格者
AD：初級システムアドミニストレータ試験	稲福 智秀（2年） 上原 佑介（2年） 山根 誓史（2年） 兼城 春香（3年） 岸本 拓麻（3年） 座間味 愛乃（3年）

FE：基本情報技術者試験	山田 親侑（5年） 上原 真矢（3年） 大城 潤（3年） 諸見里 圭太（3年） 山内 祥平（3年）
SU：情報セキュリティアドミニストレータ試験	津波古 渉太（3年）
SW：ソフトウェア開発技術者試験	栗秋 太一（4年）



認定書を手に笑顔がこぼれる学生

（資格試験担当：タンスリヤボン スリヨン、正木 忠勝）



編集後記

「メディア情報工学科だより」は、3学年以上の学生をお持ちのご家庭を対象に、試験の成績通知に合わせて発行している学科通信です。1期生が3学年となった平成18年度に刊行し、これまでに8号を発行しました。学科だよりにご意見ご要望がありましたら、是非お知らせ下さい。また学校に対してお持ちの疑問・要望、また他の保護者の方々にも知って欲しいことなどを投書して下さることも大歓迎ですので、是非お気軽にお便りをお寄せ下さい。

【編集担当者連絡先】

〒905-9021 沖縄県名護市辺野古905番地

独立行政法人 国立高等専門学校機構

沖縄工業高等専門学校 メディア情報工学科 佐藤 尚

TEL: 0980-55-4003（代） FAX: 0980-55-4012（代）